

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中で地域での活動内容は乏しいですが地域との連携、(金峰やすらぎ館運営推進会議)を19年2月に第一回目を開催することが出来ました。近隣の方々を含め、いろんな職種の方が参加して頂けました。基本は利用者いかに家庭的で自分の家と感じられるよう援助していく。	2ヶ月から3ヶ月に一回開催しています。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示し職員が常に心にとめ意識して介護にあたっている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を見やすい場所に掲示し、入居前に御家族へ説明を行っている。地域との内容をより充実させ別紙にて家族へ細かく説明を行います。地域に対しては部落の集会等で雑談の中で話しています。パンフレットを役場、事業所などに置いて貰っている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝、夕、の通勤時必ず挨拶をする。又出来るだけ近くのお店での買い物をして気軽に会話をさせて貰っています。その中で気軽に遊びに来て貰えるよう声をかけています。回覧板により集落の行事など参加出来る行事には行くようにしているし情報も得ています。	気楽に遊びに来ていただけるよう入り口に案内表示をしています。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高齢者と在宅でお暮らしの方、認知症や不眠症の方などお悩みの家族の相談にのったり、他のグループホームの紹介なども行っています。集落の自治会にも加入し奉仕作業にも参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	在宅にて高齢者の介護で悩まれている家族に対する相談業務及び他グループの紹介など行なっています。介護保険の仕組みグループホームの仕組み等説明しています。又在宅で生活するにはどんなサービスを受けることができるかなど説明します。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価では気づかない部分を外部評価で指摘された事を活かし対策を立て改善や勉強会等を行っている。		前回の外部評価で6項目の注意点と改善点が指摘され、全体会議にて改善に向け話し合い実施しました。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回運営推進会議に於いては主に主旨の説明を行いました。その中で感染予防についての質問がありました。今後いろんな問題が提起されると思います。提起された点について職員全員で話し合っていく。		質問事項 感染予防についてはマニュアルを作成し早期の対策が立てられるようにしてあります。運営会議の日程(曜日)の設定についての問題提起がありました。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定の更新や訪問看護の契約時の指導等について市町村担当者と月に数回(電話を含めて)打ち合わせを行っています。又改訂の時なども説明を受けておりその都度対応して貰っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今まで権利擁護事業や成年後見制度を必要とされる方がいませんでしたが、市町村の福祉課にてその内容に付いて説明を受けたり市の広報や冊子にて学んでいます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成18年度介護支援専門委員専門研修において人権の尊重及び権利擁護の中で高齢者虐待問題についての内容があり、研修を受けた職員より職員会議にて報告を受けました。虐待は開設以来有りません。		身体拘束に付いても身体拘束ゼロへの手引きを参考に身体拘束禁止規定をやすらぎ館として独自に勉強会などおこないました。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(部分は外部評価との共通評価項目です)			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの職種で研修の日程を決め年間一回は研修に行くように計画しています。緊急の研修に対しても日程の変更など行い参加しています。日々の仕事のなかでも購入した本など皆で読んでいます。新人に対しては必ず基本をマスターするための研修に行かせてます。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	薩摩半島地区認知症グループホーム協議会へ参加し、研修等にも参加しています。地域のグループホームとは年に1回か2回集まって情報交換を行っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に決まった部屋は有りませんが休憩室において休憩時間などにテレビを観たり会話ができる場を設けてる。ときには旅行など行っています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれの立場の方に実績や勤務状況を報告させ把握し、的確な指摘をされる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みから始まり、その時点で本人が悩んでいることが何なのかを見極め今までの生活、希望など担当職員が話す機会をより多く持つ事によって受け止めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在の生活のなかで家族が困っていることなど談話を通して話を聞く安心して電話などでまめに情報を提供して頂けるように会話に努めています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みに来られたとき今すぐにも受け入れて欲しいと訴えます。現在の状況把握に努め介護保険の内容を説明したりして利用出来るサービスから紹介しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自分の家として位置付けられているグループホームなので自分が使っていた物、馴染みの物など家族と話し合い身近に置いて頂き環境の変化に戸惑いがないように配慮し徐々になじんでもらえるよう工夫している。		仏壇、整理ダンス、椅子、ポータブルトイレ等、愛用されていた物を使用して貰っている。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活にも慣れ会話も楽しくされるようになって、その人に応じた会話の内容を話題にしている。利用者も職員を家族同様に思い気楽に声をかけています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が遠方にられる方には電話で会話をして頂きます。地元にいる家族には病院受診などお願いしふれ合う機会を作って貰っている。家族の絆を大切に共に本人の気持ちにかなえるように連携して支援を行っています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に対しては機関誌や写真などを送り、地元の家族には当館にて行う行事にお誘いをしています。本人との会話を通じ家族への思いなどを聞き面会時や電話で伝え支援に努めている。		家族の中中心的役割をして頂けるキーパソンを決めて貰っています。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くのお寺に参拝したり、ドライブがてら家の近くまで行ったり、しています。隣接のデイサービスに来られる方で知人の方がおられる際には遊びに来て頂いたり、会いに行かれるように支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションは全員が参加出来る内容にしています。ゲームなどにもその方の状態に応じてセッティングし利用者同士がふれ合う機会を作っています。また誕生会も毎月全員でお祝いしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者の事情で退館されても家族が安心して次ぎに行かれるまで家族と連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の利用者に担当職員がおりケアマネジャーを中心に話し合いに機会を持ち、それぞれに心身の状況を作成して対応しています。その内容については職員会議にてし討議しその方の思いに通う支援が出来るように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入館時家族と利用者に対していままでの生活(在宅、施設)に対して聞き取りを行っています。施設や病院に対しては情報提供を貰っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式の中から心身の情報(私の気持ちシート)を利用し総合的に把握しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を主たる課題としてとらえ家族の意向等聞き出して担当者会議を開催し本人を含めて(時々)行う。介護計画については家族に直接送付し承諾印を頂いています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実施期間を明記し提起の見直し。本人や家族から要望があった場合や状態変化時にも速やかに介護計画の見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録、介護支援経過表に毎日記録して介護計画に活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自分たちで作る食事、個人の嗜好にあった食事、入浴時のプライバシーの保護(一人一人、のペースに合わせて)など大切にしています。多機能性で少人数であるがゆえに細かなところまで一人ひとりに目配りが出来ます。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練時利用者職員共々消防署の指導を受けながら支援を受けています。ボランティアの方々も踊りの慰問などにも来て頂き交流をさせて貰っています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	隣にある同じ年代の方々のいるデイサービスに行き交流をはかっています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡は取っています。この度施設見学を兼ねて訪問をして貰いました。		現在のところ、必要とされる方はいません。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	確保している。協力医としてお願いしている病院より月2回往診に来て貰っています。(有馬病院)また本人家族の希望の病院等があれば使用して頂くように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>職員会議に於いて言葉使いや記録に付いて勉強会等行い指導しています。</p> <p>すべてに出来ているわけではありませんので、気づいた時注意していくようにしている。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>買い物デー、買い物依頼での買い物や往診時の視察の希望、散歩地域行事などへの参加を自分で言えない方の気持ちも察して声かけ支援しています。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>入居者のペースに合わせ、入浴なども会話をしながらゆっくりと一人一人入って貰っています。食後の口腔洗浄等も出来るだけご本人にして頂き、出来ない部分のみ支援を行っている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>服装は各自が自由に選び入浴時に職員に指示します。髪型も月一回美容師の方が来てくださり、ご本人の要望に応じて整髪、パーマ等行っている。要望があれば近くの理髪店、美容院を利用している。一人ひとりの好みの把握に努める。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>一緒に食事をして、食べ残しや食べこぼしがあるとき時には入居者の気持ちになって声かけを行っている。歩行に支障の無い方には食事作り、片付けなど一緒に行っています。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>定期的に嗜好調査を行いノートに記録し献立作りに役立っています。お酒や飲み物、おやつなども含め定期的に出しています。旬の食材を使い季節を感じて貰っています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄動作を把握し排便表を作り、声かけ誘導を行っている。日々のリハビリなどに工夫を加えて実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や状況に応じて対応している。ゆっくり、ゆったりを心掛けている。(週3回)個々の状況に応じて毎日行う事もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜勤日誌や個別記録等で、一人ひとりの睡眠状態の把握をし、昼間の時間を充実して過ごせるよう支援している。又、夜眠れないときにはホールで話をしたり、和室で休んで頂く時もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、園芸、食事のメニュー書き、買い物、テレビ番組、新聞読みなど趣味や経験を活かさせるよう、日々生活の中で支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで預かっているが、希望者でお金を持っている方もおられる。本人の希望があればいつでも使用できます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物デー、ドライブ、地域行事、お寺参り、散髪等出かける機会を作っている。外へ出られる時には一緒に行き見守りを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として花見、一日遠足、ソーメン流し、地域の行事、初詣など企画し実施しています。家族も家でのお祝いや、年忌等の際一緒に帰宅され外食など楽しんで帰館されます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話のダイヤル援助や、受信時の取り次ぎなど、プライバシーに配慮して支援を行っている。また、手紙等の代読はご家族、ご本人の要望に応じて行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人、友人の訪問時には、挨拶や居室への椅子の準備、お茶出し、近況など話し報告している。面会時間はフリーです。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加したり、全職員で勉強会を行って認識している。身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていません。(玄関にはセンサーを設置)玄関から出ようとされているときには、会話をしたり一緒に散歩をしたりしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフルームや台所は対面式のカウンターになっており、入居者の動きが把握出来常に見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬の保管はスタッフルームの開き戸の棚にて、入居者の目にふれない場所に保管している。また、危険な物は保管場所を決め、出しっぱなしにしないようにしている。特に包丁の管理は夕食後は開き戸に片付けカギをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を事故発生時に作成し、職員会議も議題として取り上げ内容の検討など全職員が周知し事故防止に役立っている。入所者の写真を個別に撮りアルバムにしてあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	いろんな事故に対して対応マニュアルを作り、全職員が把握している。(急病時、火災発生時、行方不明)行方不明対策としてやすらぎ館周辺の地図を各ユニットに掲示しています。		毎年消防署の方より緊急時の処理の仕方等を学んでいる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署にお願いして夜間対応や急病時などの講習を行っています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	どうゆうリスクが利用者にあるか、問題が起きたときの対処について入居時話し合いを行っています。		保険に加入している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕のバイタルチェック、食事水分量の記録、体調異常時の様子観察など個別に作成し対応している。(生活介護支援経過表、バイタルチェック表)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬と説明書を個人ファイルに綴じており、医師の指示どおりに服薬の支援を行っている。血圧の薬など経過観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給の声かけ、毎日の乳製品、食物繊維の摂取や歩行運動など行っていると共に排便日数のチェック表にて服薬の管理をおこなっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔洗浄の声かけ、一部介助を行っている。義歯洗浄使用者も一人ひとりに応じた支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量と残をチェックして日々記入しています。それに合わせて食事量を個々に今までのデータをもとに決めています。水分量に付いて3食共チェック表を使用しひとり、ひとりの水分摂取量を把握し支援を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成しいつでも見られるように、スタッフルームに置いている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に入る前は、手の消毒を行う。調理用具は殺菌してから使用しております。食材は生物については当日配達して貰い、その他の食材は週3回買い物に行き、新鮮な食材を提供しています。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ホールにベンチを設置し玄関周りには季節の草花をプランターに植えて配置し訪問者が気軽に中に入れるように家庭的な木製の表札等もかけている。そとの看板も新しくしより解りやすくしています。駐車場の確保、入り口までのスロープなど車椅子でもこられるようにしてあります。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて花を生たり装飾(暖簾、装飾品等)を行い、家庭的な雰囲気作りを心掛けています。季節感を感じるカレンダーなど利用者と一緒に作りホールや各居室に張りだしています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや和室にテレビを設置し、和室にはソファを置き入居者が自由に過ごされている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	自宅で使用されていたタンス、寝具、椅子、装飾品、ご家族 の写真や仏壇など、入居者の思い出の品や馴染みの物が 置いてある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	各居室、ホールに温度計を設置して冷暖房の温度調節や 窓、玄関等の網戸を利用し換気にも注意して開閉を行っ ている。季節の変わり目、昼夜の温度差に気を付けています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	ホーム内(廊下、トイレ、浴室等)の手摺りの設置、浴槽内の 滑り止めマットの使用、脱衣場の立ち上がりの手摺りなど安 全面の工夫をしている。廊下から洗面所トイレ迄手摺りを延 長し手摺りが無いので二重に設置しシルバーカーを置いて 周りには安全を図った。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	ホーム内の部屋等のドアは引き戸になっている。壁のシミ や汚れはその都度補修等で対応を行っている。大きなシミな どは業者に張り替えを依頼する。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	中庭での園芸、野菜作り、草取り。洗濯物、玄関先でのプラ ウターの野菜、草花の水かけ、ホーム周辺の散歩などを行っ ている。		

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 毎日約1時間散歩を実施している。雨や寒い日は館内を歩いています。* 食事メニューの充実、盛り皿の検討などして依り多彩なメニューを手作りし暖かい食事の提供をする。